

南丹市定住促進アクションプラン(案) に関する意見募集の結果

意見の募集期間	令和5年2月8日(水)～3月1日(水)
計画案の公開方法	■市役所地域振興課、各支所総務課に紙面配置 ■南丹市ホームページに掲載
市民周知の方法	■お知らせなんたんに掲載(令和5年1月27日発行) ■南丹市ホームページに掲載(令和5年2月3日～3月1日) ■なんたんテレビ文字放送で放送(令和5年2月4日～3月1日) ■南丹市データ放送で放送(令和5年2月3日～3月1日)
いただいたご意見	■計:4件(持参:0件 郵送:1件 Eメール:3件 FAX:0件)

●ご意見の概要とご意見への市の考え方

No.	該当箇所(原文など)	ご意見(修正理由・修正案(修正文)など)	市の考え方(反映結果など)
1-1	P33 第3章3(2)	<p>初歩的・一次的な相談窓口としての参農サポートセンターはいい考えだと思うが、これはセンターという場を設置するのか。ネットワーク形成や取組を支援するような仕組みが必要。</p> <p>家庭菜園レベル以上を求める移住希望者の多くは、自然農法(オーガニック)的なことに関心があったり、既存の集落営農には組み込めないことが多いので、すでに市域で確立している新規就農者やそのネットワーク、また、より大きなヴィジョンとしてのオーガニック・ヴィレッジ的な構想が掲げられている必要性を感じる。</p> <p>現に、亀岡市のオーガニック化への取組に参画している移住者から、さらに南丹市の方へ移住したいという話をちらほら耳にする。</p> <p>また、旧新庄小では、オーガニック農家のハブにできないかという話し合いが始まっており、そのような取組を後方支援していく方が移住者との人間関係も構築され、定住につながりやすいと思う。</p>	<p>参農サポートセンターは、現在のところ火・木曜日(祝日除く)に地域おこし協力隊を相談員として開設しています。</p> <p>移住希望者や農業初心者が最初の一步でつまづかないように、専業農家から家庭菜園レベルまで多様なニーズに応じた相談対応や、地域・農家などへの橋渡し、専業志向者には関係機関の案内といった業務を行っており、今後は、基礎技術に関する動画作成やお試し農園への誘導なども検討しています。</p> <p>農法を限定するのではなく、こうした取組を通じて、センター利用者を地域・農家・新規就農者のネットワークにつなぐことで、農地保全や地域社会の新たな担い手を確保していきたいと考えています。</p> <p>また、農林水産省では、みどりの食料システム法が制定され、みどりの食料システム戦略関連予算が創設されました。今後ますます施策の進展が予想され、有機農業に取り組む農業者も増加傾向にあります。</p> <p>「有機農業」とは、化学的に合成された肥料・農薬を使用しないことや遺伝子組み換え技術を利用しないことを基本として、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した農業生産方法として位置づけられていることから、消費者の有機農業及び有機農業で生産される農産物に対する理解の増進が重要であり、有機農業者やその他の関係者、消費者との連携を図りながら、総合的・一体的な取組が必要と考えています。</p>

No.	該当箇所(原文など)	ご意見(修正理由・修正案(修正文)など)	市の考え方(反映結果など)
1-2	P34 第3章3(6)	<p>学校教育の充実については、定住促進に関わらず必要なことしか記載されていないと感じる。</p> <p>学校現場で、移住者の子どもが馴染めずにいる場面がしばしば見受けられ、多様性を受け入れるような仕組みづくりが必要。</p> <p>また、フリースクール等を市内に誘致することや、各地で急成長しているインターナショナルスクール等に思い切ってアプローチすることも、移住者拡大や旧校舎活用に有益かと思う。</p>	<p>多様な子どもたちの受け皿として適応指導教室「さくら」を開設し、所属校との連携を密にして、社会的自立をめざして支援しています。</p> <p>また、フリースクールやインターナショナルスクールは、無料ではないため、経済格差が教育格差につながらないように配慮が必要です。</p> <p>そのため、市としては、まず学校教育の質の向上や支援体制の充実をめざし、その地域で教育ができる環境を整えていくことが重要と考えているところです。</p>
1-3	P35 第3章3(9)	<p>災害の度に復旧工事を必要とするような限界集落を「オフグリッド」化(独自の発電等のインフラを確保したりエネルギーの自立化を図る)等されたコレクティブハウスのようなものを推進することにより、そのような場に魅力を感じる一定層の移住を促進する。</p> <p>また、先行き不安を感じる移住希望者も多いことから、有事に備えたシェルター的な場も考えられる。</p>	<p>オフグリッド化やコレクティブハウスを推進するには集落の合意形成が必要であり、また、シェルターなども含めて、整備には一定の予算が必要となるため、当面は情報収集に努めてまいります。</p>
1-4	P35 第3章3(10)	<p>インターネット工事が高額で驚く声を移住者数名より聞いた。</p> <p>場所によるのかもしれないが、個別に引くことで高額になるなら、リモート/メタバース化している若年層向けに、予めまとまった区画に高速回線を整備して「スマート・タウン」的に開発することも、この先5年を見据えたときに魅力的かと思う。</p>	<p>これまで、公設公営で市内全域に高速通信を可能とする光ファイバー網を整備し、インターネットも有線テレビの補完サービスとして実施してきましたが、新たに加入された方には、市条例に基づき加入分担金と工事費をご負担いただいていたところでした。</p> <p>しかし、IT技術等の急激な進展等で公設公営での運営が難しくなったことから、令和5年4月に有線テレビ事業を民間事業者へ移管することとなりました。今後は市が整備した光ファイバー網を基盤に、民間事業者の柔軟な発想と展開により、高速大容量のサービスが安価に提供されるものと期待しているところです。</p>
1-5	プラン全般	<p>「田舎生活の大敵」である除草や除雪をしなくて済むよう、88%の森林環境を活用(ウッドチップ敷設等)したり、木質バイオマスを利用して融雪したり等、南丹市ならではの取組を盛り込んでほしい。</p>	<p>田舎ぐらしに除草や除雪はつきものですが、今後はこれらの負担軽減につながる取組についても、限られた予算や人員体制のなかで、優先順位をつけて検討してまいります。</p>
1-6	プラン全般	<p>移住希望者より、南丹市への移住相談の問い合わせをしたが、物件紹介に消極的であったという声を聞いた。</p> <p>少しでも魅力を発信できるようになればと思う。</p>	<p>本市としては、定住促進サポートセンターを中心に、物件紹介だけではなく、京の田舎ぐらしナビゲーターなどと連携して、地域と移住希望者の橋渡しまで積極的に行っております。</p>

No.	該当箇所(原文など)	ご意見(修正理由・修正案(修正文)など)	市の考え方(反映結果など)
			今後もいただいたご意見を参考に、本市の魅力を発信するとともに、地域と移住者の良好なマッチングをめざして取り組みます。
2	プラン全般	50年以上にわたって農山村から都市への人口流出が続いた結果、担い手不足で地域社会の維持すら困難になりつつある農山村と、少子化にも関わらず保育所に入れない都市の課題が混在している。 特に過疎高齢化が著しい地域においては、医療・金融機関や店舗等の廃止縮小など、地域の自助努力では対処できない生活基盤の機能低下が顕在化しており、長期間安定した施策を継続するとともに、現状以上に支援水準を引き上げないと、地域社会が崩壊する恐れがある。	P22～25 第2章2「人口カルテ早見表」にあるように、旧村・行政区単位で人口動態を分析すると、人口減少・高齢化が著しく進む地域が相当数あることがわかります。 こうした地域の担い手不足は、長期間にわたる社会構造の変化が招いたものであることから、安定した施策の継続とあわせ、集落機能を維持するための特別対策についても、限られた予算や人員体制のなかで、優先順位をつけて検討してまいります。
3-1	P33 第3章3(2)	参農サポートセンターに関して、農業に新たに携わりたい人に対し、営農希望者以外も対象とした行政の窓口があることは素晴らしい。 実証中にそのような層からどんなニーズがあったかなどをもとに、農地活用に向けたマッチングや活用サポートなどが始まるとよい。 市民団体「つむぎ」の移住サポートとして農×移住講座を2年間実施した際、特に市街地に居住されている市民の方に、農に携わりたいというニーズが多くあると感じた。 市民対象の市民農園を通いやすい場所につくるなど、地域のなかでの担い手育成や農に関心のある人の定住促進にもつながるのでは。	参農サポートセンターでは、移住希望者や農業初心者が最初の一步でつまづかないように、専業農家から家庭菜園レベルまで多様なニーズに応じた相談対応や、地域・農家などへの橋渡し、専業志向者には関係機関の案内といった業務を行っており、今後は、基礎技術に関する動画作成やお試し農園への誘導なども検討しています。 こうした取組を通じて、センター利用者を地域・農家・新規就農者のネットワークにつなぐことで、農地保全や地域社会の新たな担い手を確保していきたいと考えています。
3-2	P33～34 第3章3(4)～(6)	子育て世帯の移住・定住促進には、保育所を含め、子どもたちが通える場の選択肢や多様性、通学・通所手段があることが必須だと思う。 保育所でも職員数不足で入所できない可能性があったり(改善されたようだが)、最寄りに行けず、離れた保育所に通うといったケースを聞く。今後も待機児童や通所先が限られた選択肢にならないよう対策をお願いしたい。 南丹市の自然環境を活かして自然保育を実施する保育施設・幼児教育施設等は、市民からのニーズもあり、新たな移住・定住層が獲得できるのでは。積極的にとりいれることを検討されているか。 学校統廃合や保育施設等の利用児童が減少するなか、通学・通所の移	本市では保育の提供区域を中学校区単位と定めていますが、現状は園部町内の施設に入所できず、八木・日吉町内の施設への入所といった事例や待機児童が生じています。対策として受け皿拡充のための民間施設誘致、保育人材確保のための奨学金返済支援、家賃補助制度を設けたところですが、今後はさらに民間活力を活用し、施設と人材の確保を図る必要があると考えています。 また、本市の教育・保育実践は、子どもの非認知能力を高めるため「子どもの主体性を育む保育」へと変換を図る取組を継続して進めており、自然保育の積極的導入は行っていませんが、園庭や園外での身近な自然に触れ、活かす保育は、各施設が実践しているところです。

No.	該当箇所(原文など)	ご意見(修正理由・修正案(修正文)など)	市の考え方(反映結果など)
		<p>動手段の確保が、子育て世帯の移住・定住に必須となる。徒歩圏内に学校等がない地域が多くなった南丹市において、「これらの確保は居住場所を選択した個人が解決すべき責任」となってしまわないように、公共サービスの維持・提供等をお願いしたい。</p>	<p>通所手段については、保護者の送迎が困難で公共交通機関を利用する場合、定期券購入費を補助する制度を設けており、美山町知井地区からみやまこども園までの無料送迎バスも運行しています。</p> <p>通学手段については、少子化に伴う小学校再編整備に関わって、スクールバスを運行することで登下校の保障を行ってきました。</p> <p>また、公共サービスだけでなく、従来からの市内インフラの維持も重要と考えており、市として運行事業者等にも働きかけています。</p>
3-3	P37 第3章4(10)	<p>賃貸住宅の整備はぜひ進めてほしい。</p> <p>特に若い移住者や子育て世帯にとっては、最初から物件の購入は難しく、お試し期間として賃貸住宅が必要。</p> <p>また、農村・中山間地域では特に賃貸物件がなく、南丹市の自然・農村環境があるから移住・定住したいという層に選択肢がない。</p> <p>農の担い手育成という点からも、1～3年の田畑や受入集落のお試し・修行期間に利用できる物件があると対象層が広がるのでは。</p>	<p>企業の人材不足も深刻化している農山村地域では、賃貸住宅が少ないため、住宅が確保できずに採用を断念した事例も発生しています。</p> <p>こうしたことから、企業や地域団体が行う移住者向けの社員寮・賃貸住宅の整備に対して、補助金を交付する「企業連携移住促進事業」を実施しています。</p> <p>また、ご提案いただいた農の担い手育成に向けた取組についても、地域と連携しながら検討してまいります。</p>
4	プラン全般	<p>P1～29 第1～第2章については、全体の状況把握がされ、現状をよくまとめられている。</p> <p>P30～41 第3章については、施策と方針は概ね理解できるが、取組の具体策が見られないように思えるので、何か良策はないか。</p> <p>地域団体の役員・各区長等だけではなく、特に若い年代からも提案や意見募集を常時行い、関心を持ち意識を高めないとならないので、良策があれば各年ごとに附帯資料として加えられないか。</p>	<p>個別の取組にかかる詳細については、アクションプランには記載していませんが、別途要綱や定住ガイドブック等で公開しています。</p> <p>また、アクションプランに関する意見募集(パブリックコメント)については、地域団体の役職等に限らず幅広く募集したものであり、この募集期間内で終了させていただきます。</p> <p>しかしながら、こうした形式でなくても、ご意見は常に受け付けており、今後も地域の実情に応じた施策を検討してまいります。</p>